

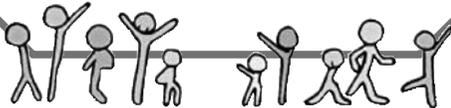
が終わる。

このように仏教とともに人生をすごすミャンマーでは、ほとんどの人がお経を覚えており、お葬式などでは僧侶の読経に合わせて参列者の全員がいっしょに唱える。その響きは厳かで清らか、まさになにか人の魂がゆっくりと天に吸い上げられて行くが如しである。死に場所について特別なこだわりがあるわけではないが、もしミャンマーで死んだら本当に成仏できるかも知れないと思ってしまった。

ブッダーン ダランナーン ゲッサーミッ
 ダンマーン ダランナーン ゲッサーミッ
 タンガーン ダランナーン ゲッサーミッ

セブの交通機関

国際コミュニケーション学部 3年
 川本 美結



私は2019年4月から6月にフィリピンセブ島に留学した。セブは常夏の島で独自の面白い文化をたくさん体験したが、今回はセブのユニークな交通機関について紹介する。

週末に留学仲間と“Lantaw Floating Native Restaurant”というフィリピン料理が楽しめる海上レストランに行くことになった。寮のある学校からはタクシーを往復でチャーターすると約3000ペソで行くことができるが、せっかくの留学なので現地の人が使う交通機関を使うことにした。まずは学校から車で15分ほどのショッピングモールまで、ジ

ブニーというトラックの荷台に屋根付きの座席がついたような乗り物を使った。路線バスのような感じで運賃は7ペソだ。市民の足になっているが、窓もエアコンもないので車が止まった瞬間汗が噴き出てくる。モールからは長距離バンに乗り換えで、一人30ペソだ。このバンは11人乗りだが、フィリピンはそんなことは気にせず、乗れるだけ乗せる。この時も16人ぐらい乗せて出発した。密着しすぎてほぼ身動きが取れない中、ファストフードを食べ始めたり、大音量で動画を見始めたりする乗客とともに渋滞した道を1時間ほどかけてバンステーションまで向かった。道路状況と車内環境の悪さで車酔いをしてセブで一番過酷な移動だった。バンステーションからレストランまではトライシクルというバイクの横にかごがついた乗り物を使って移動する。一人20ペソだ。陽気なおじさんの運転手と、風を切って走る爽快感とともに約10分でレストランに到着した。海上レストランでは沈む夕日を見ながらフィリピン料理を楽しんだ。帰りも来たまま帰れるかと思いきや、トラ



市民の足であるジブニー



“Lantaw Floating Native Restaurant”

イシクルが全く見つからない。声をかけてくるのはトライシカットと呼ばれる自転車の横にかごがついた乗り物で、ぼったくりの値段を提案してくる運転手ばかり。結局2人乗りのトライシカットを4人で乗るといふ、少々不安な提案で交渉成立した。料金は相場の3倍以上の1人40ペソだった。人力で定員の2倍を乗せた運転手は、案の定へとへとになりながら私たちをバンステーションまで送ってくれた。さらにチップを要求してきたがそれは断り、そこからは順調に寮まで戻れた。今回の旅で、ジブニー、バン、トライシクル、トライシカットと4種類ものユニークな乗り物に乗ることができた。もし、セブに観光に来ているだけだったらこのような体験はしないだろう。留学ならではの貴重な冒険だった。



Selamat Pagi! Malaysia

～マレーシアの旅～

現代中国学部2年 角田 涼希

今年の春学期に現地プログラムでマレーシアに行きました。なぜマレーシアを現地プログラム先を選んだかという自分の中で現地プログラム先が中国・台湾・マレーシアとある中で1番ナゾな国だったからです！現地プログラム前は「現地プログラムでマレーシア行くけど、マレーシアに中国語話す人なんかおるんかな～」というのが正直な気持ちでした。実はマレーシアは7割のマレー系、2割の中国系（華僑）、と1割のインド系の人々が暮らす多民族国家です。国教はイスラム教で私の語学パートナーは中国系でキリスト教を信仰する人でした。この事だけでも「世界にはいろんな人がいるな～」と感じるものが多くあり、「多民族国家の国って、めっちゃ知らへんことあるし、面白いんちゃう！」と思ったのはこの事を知ってからでした。それから私は旅行が好きなのでマレーシアの色



マラッカ教会